

## 附船宿長浜屋旧蔵「歳々入船帳」の概要

嶋田 忠一\* 新堀 道生\*\*

### はじめに

「歳々入船帳」は、出羽国土崎湊の附船宿・長浜屋に伝来した、宝暦10年(1760)から明治16年(1883)までの間に扱った廻船を記録した顧客帳である。現在は当館の所蔵となり、人文展示室の「舟運の発達」コーナーに展示中である。

土崎湊は秋田藩の久保田城下町の外港として栄え、長浜屋はそこで代々附船宿を営んだ。附船宿は、湊に入津した船を停泊地まで誘導し、また乗組員の宿泊所ともなった業者で、土崎湊では文政2年(1819)頃、17軒の附船宿があった<sup>1)</sup>。なお、長浜屋は近代に入ると長浜谷姓を名乗るが、ここでは長浜屋と表記する。

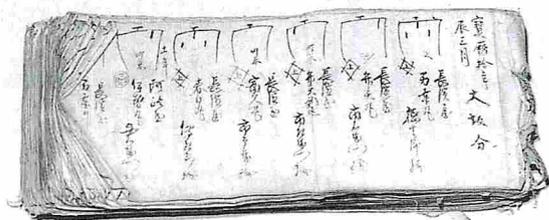
本資料については、すでに『土崎湊町史』(昭和16年刊)に載るが、そこでは詳細を知ることができなかった。ここでは同書を補う意味で、まず全体的な体裁・書式を紹介するとともに、出羽船籍を中心にまとめた。

### 1. 解題

#### (1) 資料の体裁

寸法は36.5cm×15cmの横長帳で、料紙を一枚ずつ縦寸法の中心から二つ折にしたものを、折り目を下方にして重ねて揃え、右端を二ツ目綴にしたもので、大福帳によくみられるような吊り下げ可能な綴じ紐が付せられている。丁数は白紙を含めて211丁、うち墨付きは189丁である。

表紙が失われているが、破断した裏表紙には「紙数無量 長浜屋三太郎」と大書されている。これに対し、当資料とともに伝来した明治期の顧客帳には、表紙に「歳々入船帳」、裏表紙に「長浜谷三太郎」と記されたものがある。双方とも記載様式・寸法が酷似しており、同系統の顧客帳と認められることから、当資料を「歳々入船帳」と呼ぶことにする。



「歳々入船帳」表(写真上)と裏(写真下)

#### (2) 構成と表記

本帳の構成は、基本的に大坂・神戸・阿波などの国別・船籍地別に、年代順で配列されている。おおかた見開き1丁につき16隻ずつ記事が記されている。全体では2,637隻となる。各船籍地の冒頭には「大坂分」など見出しが付され、ついで年代順に入津船名等が記されている。

資料の記載順にしたがって見出しを列挙すれば、(1)大坂、(2)摂津西宮・御影・東明、(3)堺、(4)神戸、(5)兵庫・明石、(6)阿波、(7)淡路島、(8)筑前・肥州・和泉、(9)播磨、(10)塩飽、(11)讃岐、(12)伊予、(13)安芸、(14)豊後・周防・日向・豊前、(15)長門、(16)肥前、(17)肥後、(18)薩摩、(19)因幡・出雲、(20)越前敦賀・橋立・三国、(21)加賀、(22)佐渡・能登、(23)越中、(24)越後、(25)酒田・本庄・湊・塩越・亀田・能代、(26)津軽、(27)南部・仙台、(28)松前、(29)江戸・遠江・尾張、(30)備前・備後、(31)備中の順となっている。なお、資料では「敦賀」を「ちるか」とするなど宛字が多用されているが、ここでは一般的な表記に直した。また、(18)薩摩は

\* \*\*秋田県立博物館

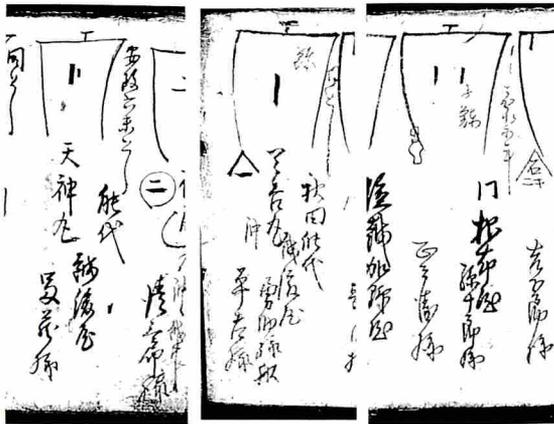


写真1

写真2

写真3

見出し部分を残して破断し、内容を欠いている。

このように、大坂を起点とし、瀬戸内、九州、北陸、出羽を経て、江戸・東海に至る構成となっている。ただし、(8)では九州と和泉が混在し、備中が末尾に配されるなど、多少の齟齬がみられる。

次に、書式について具体例を掲げておく。これも一貫性を欠き、簡易な記述となっている。たとえば写真1のごとく、年代、帆印、船籍地、船名、船主・船頭名を記すのに対し、写真2～3では船印・積荷も記すなどである。

船主・船頭の表記にも、いくつかのパターンがある。写真2は「越後屋勇助様船／沖・平吉様」と、沖船頭であることが明示されている。では、「沖」表記のないものは直乗船頭であったかといえ、写真3は「根布屋孫十郎様／正兵衛様」とあり、孫十郎は船主、正兵衛は沖船頭と推測されるのである。この点、複数回登場する船の記述を追ってみると、書き落としもあったことが分かる。たとえば以下は秋田湊船籍の竜王丸の例である。

- ① 横山久助船／沖・勘四郎様
- ② 横山久助船／ 勘四郎様
- ③ 横山久助船／ 勘四郎様
- ④ 横山久助船／沖・勘四郎様

この場合、②③は「沖」の書き落としであり、勘四郎は一貫して沖船頭であったと判断されよう。

年代表記についてみると、同じ年の記事が続く場合に「同」「同とし」と略記したり、あるいは書かなかったり、干支のみの場合がある。年代の順序が逆転している箇所もみられるが、これは別の記録から編集・転記する過程で混乱が生じたも

のであろう。

また、明和・安永年間(1764～1781)の記事が皆無である。これは、廻船問屋の客船帳にみられるように、初回取引時にかぎって記帳し、その後の来船時には重ねて記帳しない方式を採ったためと思われる。しかし、特に幕末以降は同一船の再出記事が頻繁にみられるようになる。帳簿の性質が、顧客リストから入船記録へと変化した可能性もある。

以上のように、「歳々入船帳」は、構成の不備や表記の不統一を多く含み、記述の態度に一貫性を欠くところがある。もっとも、それらの点は、附船宿の経営の性質とかかわらせて読み解く必要がある。すなわち、一般に、附船宿は廻船問屋と異なり本来は荷捌きに関与しなかったが、しだいに問屋的な業務に進出したと言われる。したがって、長浜屋の廻船との関わり方も、単なる宿の提供であったり、あるいは商品の取り捌きに関与するなど、時と場合により厚薄があったであろう。それが船頭や積荷表記の差異に反映していないか、今後検討を要する点である。

### (3) 挿入文書

本文の構成等については以上であるが、本文とは別に、帳簿の中に挟み込まれた証文、覚書など雑多な書付が11通ある。これらは長浜屋と廻船との関係を考えるうえで有益と思われるので、翻刻して本稿の末尾に掲げた。なお、番号は帳簿に挿入された順番を示す。

## 2. 諸国廻船の動向

一般に、「客船帳」「入船帳」は廻船問屋の自家取扱い客船備忘録とされ、船名・船主・船頭等を記すに止まり、取扱い物品にまで触れるものは少ないともいわれる<sup>2)</sup>。

「歳々入船帳」は、附船宿長浜屋家備え付けの顧客帳であり、各廻船はいわば得意先として記されたものである。もともとなったのは一年ごとの入船台帳と考えられる。その後、国別、船籍地ごとに集成されたものが本資料である。記載形式は、廻船問屋の「客船帳」と同様であり、次のような事項を記載する。

まず帆の外形を描き、その内部や周辺に、入出津年月日、船名、船籍、船主、船頭、積荷、船印、帆印、行先、積石数、帆反数、造船歴等が記される。とはいえ、これらの全てが漏れなく記される場合は前述の如く、一般的には少ない。本資料の場合も同様であり、かつ一般的な客船帳にくらべて記述は簡略である。したがって、これをもとにした分析には問題が多いと言わざるを得ないのであるが、全体的な傾向を知る上では参考になろう。

以下に若干の知見を記した。

### (1) 入船開始と終期

第1表の「入船数」は、附船長浜屋の取引開始から終了までの総数であり、「登米船数」はそのうちの藩米輸送船の数である。

附船宿長浜屋と取り決めを交わした廻船のうち、最も早い時期の入船は宝暦期であり、阪神・瀬戸内船籍のいわゆる上方廻船が多い。とともにこれらの船の記事は秋田藩の扇紋の図示を伴う場合が多い。これは藩米賃送のチャーター船であり大坂廻米船と考えられる。さらに上方廻船の場合は、「かへ（買い）」と記載されることが多く、空船による仕入目的の入津と思われる。しかし、これが藩米以外の町米買付を意味するものかは不明である。

北前船の活動については、宝暦から寛政年代が最初の盛期にあたり、次いで化政期以降が第2の段階、幕末から明治20年代までが最盛期と見られている<sup>3)</sup>。第1表からも、初期の上方廻船から次第に加越能筋日本海廻船に担い手が移ってゆく様子が窺える。

### (2) 積荷

第2表は「津軽之分」、第3表は「武州江戸・遠州・尾州分」の積荷記事及び同記事記載の船数である。前者はいわゆる俵物船であり、化政期以降の日本海廻船に特有な傾向をあらわしていると思われる。また、これらに「かへ」記事はなく、上り荷売船であることも特色であろう。一方後者は、扇紋を図示する廻船が多く、江戸廻米船を指している。この表は文化3年（1806）から明治元年（1868）までの整理表であるが、この間の総船

数は129である。うち、57隻が藩米輸送に関わっている。このうち積石数の記載があるものは24隻で、およそ3万石の移出があったことになる。

### 3. 出羽船籍の概要

附船宿長浜屋の客船は2,637隻であるが、ここでは「酒田・本庄・湊・塩越・亀田・能代分」を整理し第4表とした。天明3年（1783）から明治8年（1875）までの92年間445隻分である。これにより本県の船主や船籍地（場合によっては船主の所在地を表す）が把握できよう。また、今日なお記憶に留まる船主・屋号が見られ、活発さが窺われるとともに、彼らの多くは、5～6人乗あるいは15反帆程度の、およそ400石積前後の直乗船による経営ではなかったかと思われる。

ちなみに、土崎湊船籍の内、主な船主は次のとおりである。

佐藤 善兵衛	大山 多一郎	西村 幸吉
加賀屋 富太郎	山内 平兵衛	相沢 仙蔵
麻木 藤八郎	石又 亀吉	岩城 新六
越前屋 末吉	折戸屋 甚蔵	金子 清四郎等
草皆 周吉	黒丸 喜惣兵衛	佐藤 兵助
佐藤 幸助等	杉山市助	藤木
日野屋 仙蔵	佐渡屋喜惣兵衛	間杉 長三郎
日野屋 仙蔵	二木 孫兵衛	館山 三郎兵衛
水戸瀬 直光	松井 吉右衛門	安田 儀助
根布屋 孫十郎	横山 久助	横山 嘉七
綿屋 清兵衛	畑屋 三左衛門	松井 吉右衛門
平沢屋五左衛門ほか		

これら地船ならびに船主の経営形態や稼業年代等については、問屋の客船帳や仕切書等、他の廻船史料を比較検討の上で、正確を期したいと考える。

### おわりに

諸国廻船船乗りの宿泊には廻船問屋（問屋）と附船宿（附船）があたった。問屋は、船主との取引に応じて積荷の売買や輸送、買付品の調達等幅広い業務のほか、船頭専門の船宿を務めていた。これに対し、附船は船頭以外の乗組員の船宿であり、階層的にも区別されていた<sup>4)</sup>。ほかに土崎湊では、小宿があり、商品取引に深く関わってきたことが知られている<sup>5)</sup>。これら廻船に携わってきた業者・職業の内、問屋や小宿については研究成果も多く知られるが、明確に附船宿関係資料とし

て明らかにされたものは少ないように考える。こうした折、リニューアルオープンとともに、「歳々入船帳」を展示することができ、さらにここにその概要の一端を報告することができることは幸いなことである。

これを機会に、今後とも展示公開を継続しながら長浜屋資料の全体を明らかにしていきたいと思う。

## 註

- 1) 「土崎湊出入品覚控」(『秋田市史』10近世史料編下、平成11年、秋田市) p263
- 2) 小村式「幕末日本海の商品流通について」(福井県立図書館・福井県郷土誌懇談会共編『日本海海運史の研究』、昭和42年) p552
- 3) 北見俊夫著『日本海上交通史の研究』(昭和48年、鳴鳳社) p360
- 4) 斎藤晃吉「第三章 福浦港覚え書」(『北陸と海運 - 北陸総合学術調査団報告第一冊 -』、昭和38年、北陸総合学術調査団)
- 5) 小宿は「領内の需要を見はからい、商品を注文し、湊に揚げられた積荷を問屋に入れ、そこで問屋と仲買い商人とを媒介して商取引を行う商人」とされる。なお、今村義孝「秋田藩と若越海運」(福井県立図書館・福井県郷土誌懇談会共編『日本海海運史の研究』、昭和42年) p816参照。
- 6) 挿入文書1と同10は、長浜屋三太郎に対する業務依頼状である。廻船側からこのような書付を渡して契約を締結したことが分かる。10では船主が押印し、船頭の押印はなく、船主が契約の主体であったと考えられる。
- 7) 挿入文書2は、「附船三太郎を申付被下度」とあるから、長浜屋の上位者に宛て、廻船受入を指示するよう依頼したものである。問屋などから附船宿が顧客をあてがわれるケースがあったのであろう。
- 8) 挿入文書8では、船川港で長浜屋への附船依頼を決定している。これにつき「歳々入船帳」本文の行間には、「船川ニ而御見舞致シ附船宿被仰付候」、「戸賀ニて御見舞致し宿取極メ」など、所々に契約の経緯が書き込まれている。船川・戸賀など近隣の港に停泊する廻船に対し、営業を仕掛けていたことが分かる。恐らく「留吉参り申候也」というのは、手代など長浜屋の配下の者が船川に派遣されたのであろう。なお、「唐人」は樺太を示す。
- 9) 挿入文書7では、代々木屋が配下の廻船に対して、長浜屋への止宿を指示している。長浜屋に直接宛てた書類ではないが、最終的に長浜屋のもとに残存したことからすれば、長浜屋に手交されることによって業務依頼状として機能したのであろう。附船宿の受注ルート、契約形態の多様さが窺われる。
- 10) 註6参照。

第1表 諸国廻船の入津年代

	宝暦	明和	安永	天明	寛政	享和	文化	文政	天保	弘化	嘉永	安政	万延	文久	元治	慶応	明治	入船数	登米船数
大坂	10																8	161	21
摂津西宮 御影東明							?				5							29	13
堺					7												1	28	2
神戸	10								12									50	34
兵庫・明石			3				9											30	4
阿波	10											6						59	8
淡路島	10																4	24	5
筑前・肥州・和泉					2					1								15	8
播磨					2							5						40	2
塩飽					1				8									11	0
讃岐	12																6	21	1
伊予					3												1	22	16
安芸	11																4	71	42
豊後・周防・日向・豊前	12																4	36	14
長門						2								1				39	15
肥前	10										3							41	34
肥後	10								14									13	12
因幡・出雲							2			3								5	0
越前敦賀・橋立・三国							2										2	14	0
加賀			5														6	12	0
佐渡・能登							8							3				78	1
越中							13										9	129	0
越後						1											12	736	2
酒田・本庄・湊・塩越・亀田・能代			3														8	445	0
津軽							12										16	131	0
南部・仙台							12										9	57	0
松前							3										12	200	0
江戸・遠江・尾張							3										10	129	57
備前・備後		1									3							4	0
備中					4												6	7	0

註) 船籍地名は資料本文の見出しの表記に従った。

計 2637 291

第2表・「津軽之分」積荷記事

年	入船数	積荷等の記事及びそれらの記載隻数	年	入船数	積荷等の記事及びそれらの記載隻数
文化12	1		明治2	17	鯨」4・身欠」2・米」1
文政3	3		明治3	13	鯨」7・筋子」1・昆布」1・秋味」1
天保9	1	鯨」1	明治4	5	鯨」3・身欠」1
弘化4	1		明治5	7	鯨」3・身欠」1・秋味」2
嘉永3	3	鯨」2	明治6	5	身欠」1・塩引」1・昆布」1
嘉永6	4		明治7	6	鯨」3・身欠」2・昆布」1
安政1	3	鯨」1	明治8	7	鯨」1・身欠」5
安政3	1	鯨」1	明治9	7	鯨」2・身欠」3
安政4	1		明治10	5	身欠」2・イコ草」1
安政5	2	鯨」2	明治11	3	鯨」2
安政6	1		明治12	2	身欠」1・秋味」1
文久3	3	鯨」1	明治13	3	材木」竹」1・秋味」1・サメ」1
慶応1	3	鯨」1	明治14	2	竹」1
慶応2	6	鯨」2・身欠」1・酒」1	明治15	2	身欠」1
慶応3	5	鯨」2・身欠積入」1	明治16	5	縄」1・イコ」1・身欠」1・秋味」1
明治1	4	鯨」ほっけ」1・身欠」わかめ」1			

第3表・「武州江戸・遠州・尾州分」積荷記事

年	入船数	積荷等の記事及びそれらの記載隻数	年	入船数	積荷等の記事及びそれらの記載隻数
文化3	2	江戸廻り」3	安政6		千六百石」1 八百石」1 千石」1
文政12	1	才木」御米」廻り」1	万延1	3	越後あら川」御米」1 1
天保8	1		文久1	3	一番」二番」1 1 新潟より箱館行」1
天保14	6	江戸廻り」御米」2	文久2	2	1 1
天保15	5	江戸廻り」2・かへ」1・初」1	文久3	5	1 戸賀にて」1
弘化2	4	魚油」昆布」1 1 1 1	元治1	7	千二百石」1 1 1 1 1 1 1
弘化3	2		慶応1	8	千五百石」1 江戸」廿五反」1 1 千五百石」1 江戸廻」千二百石」1 千五百石」1
弘化4	14	千五百石」一番」二番」1 川口にて破船」1 九百七十石」1 千三百石」1 江戸」御米」1 御米千二百石」1 かへ」1	慶応2	2	1 1
嘉永5	1	御門才木」四百石」御米七百石」1	慶応3	5	1 1 1 1
安政1	1	1	明治1	4	
安政2	2	1・酒田廻り」かへ」1 酒田廻り」かへ」1	明治3	3	1 1
安政3	3	江戸御米」千六百石」門才木」1 御米」千石」門才木」東廻り」1 御米」1	明治4	2	1
安政4	3	1	明治5	3	
安政5	4	千三百石」1 八百石」1 千四百石」1 ます」こんぶ」四百石」1	明治6	5	(洋式帆船4初出)
安政6	18	八百石」1 七月廿六日大風にてハせん」千四百石」1 千石」1 千三百石」1 七月廿六日大風にてハせん」千石」1 九百石」1 八百石」1 才木」千三百石」1 千三百石」1 千石」1 かへ」九百石」1 八百石」1 千石」1 千三百石」1	明治7	6	(洋式帆船3)
			明治8	1	
			明治9	1	大山酒」松前行」
			明治10	1	1
					入船数129隻中、登米船数57隻

第4表・「酒田・本庄・湊・塩越・亀田・能代分」整理表

No.	年代	西暦	年 間 入船数	船 名	港及び船 主住所在地	船 主	船主直乗	沖乗船頭(出身) *「沖乗船頭」の明示有	積荷・入津事由	船印	帆印		
1	天明3	1783	1	三徳丸	能 代	奈良屋	重右衛門	—	かへ	無紋	○		
2			松尾丸	五兵衛			—	かへ	無紋	○			
3			永重丸	—			—	—	無紋	○			
4	文化3	1806	1	宝生丸	上 野	佐藤	善兵衛	—	江戸廻り	○	○		
5			文録丸	—			—	—	—	○	○		
6			—	酒 田	升川屋	吉右衛門	—	—	—	○	○		
7			—			塩 越	須田	圓助	—	—	鯨	×	○
8			—	—	—			—	—	—	×	○	
9			—	平 沢	—	助右衛門	—	—	—	×	○		
10			—			—	—	—	—	—	×	○	
11			—	本 庄	—	藤屋	善吉	—	—	—	○	○	
12			福寿丸			—	伝七	—	—	—	○	○	
13			福寿丸			—	久保田山の内	平兵衛	—	—	—	×	○
14			伊勢丸			—	古木	与平治	—	—	—	○	○
15	天保5	1834	1	—	秋 田	藤木	—	—	—	○	×		
16			—	塩 越			油屋	—	—	—	—	×	×
17			幸宝丸		能 代	湊屋		武兵衛	—	—	—	×	○
18			八幡丸	能代濱	—	—	—	—	鯨	×	—		
19			—	平 沢	大丸屋	—	—	—	—	×	—		
20			明神丸	福 浦	—	嘉内	—	—	—	×	—		
21	天保13	1842	1	—	平 沢	—	久六	—	鯨 鮎	×	—		
22	天保15	1844	1	大丸丸	秋 田	—	佐藤兵助	—	善治郎(越中)	かこい」御米」はき船」	○	○	
23			神力丸	西村幸吉			—	嘉左衛門	—	—	×	○	
24			大丸丸	間杉五郎八			—	源四郎	—	—	×	○	
25			神力丸	久保田	西村	幸吉	—	—	—	×	○		
26			八幡丸	本 庄	長谷川	助四郎	—	—	かこい	○	○		
27			龍宝丸	最 上	吉野屋	小太郎	—	—	—	○	○		
28	弘化2	1845	1	誓富丸	秋 田	—	仙蔵	—	—	×	○		
29			2	新 造 大盛丸	秋 田	—	久兵衛	—	江戸」廻り」秋田新川に て新造」世話方佐藤兵助」 船頭久兵衛」	○	○		
30			3	小栄丸	能 代	湊屋	徳治郎	—	—	×	○		
31	弘化3	1846	1	大丸丸	秋 田	佐藤兵助	—	甚蔵	—	○	○		
32			2	—	平 沢	—	太治右衛門	—	—	×	○		
33	弘化5	1848	1	幸吉丸	石 脇	仙台屋	嘉吉	—	—	×	○		
34			2	亀吉丸			仙北屋勇助	—	治三郎	—	×	○	
35			3	神徳丸	久保田	加賀屋富太郎	—	久助	—	×	○		
36			4	—	酒 田	山口	庄五郎	—	—	×	×		
37			5	明神丸	能 代	越後屋	清五郎	—	—	鯨	×	○	
38			6	幸吉丸	湊杉山小路	—	市助	—	—	×	○		
39	嘉永2	1849	1	神徳丸	秋 田	加賀富	久助	—	松前」セツ」ぬり」	×	○		
40			2	幸徳丸	石 脇	仙台屋	嘉吉	—	—	×	○		
41			3	亀吉丸		仙北屋	治三郎	—	五つ」ぬり」	×	○		
42	嘉永4	1851	1	天神丸	秋 田	岩城新六	杉山	権八(戸賀)	—	五つぬり」	×	○	
43			2	嘉永丸			—	—	仁左右衛門	—	○	○	
44			3	長栄丸			—	—	吉五郎	—	○	○	
45			4	龍王丸	石 脇	平沢屋五左衛門	—	勘兵衛	—	○	○		
46			5	亀吉丸		仙台屋	治三郎	—	—	○	○		
47			6	三社丸	酒 田	斎藤八三郎	—	嘉吉	秋味	○	○		
48			7	神明丸		—	喜三郎	—	—	×	○		
49	嘉永5	1852	1	—	秋 田	根布屋孫十郎	—	正兵衛	子鯨	○	○		
50			2	喜福丸			日野屋	仙蔵	—	—	×	○	
51			3	幸徳丸	石 脇	最上屋	嘉吉	—	—	×	○		
52			4	長栄丸		塩 越	加野屋甚太郎	—	治吉	—	×	○	
53	嘉永6	1853	1	吉祥丸	秋 田	黒丸	長三郎	—	—	○	○		
54			2	大黒丸			権八	—	—	—	○	○	
55			3	徳全丸	石 脇	仙台屋	治三郎	—	—	×	○		
56			4	善安丸		酒 田	本長	善九郎	—	—	×	×	
57			5	日吉丸	塩 越	住吉屋	伊三郎	—	—	×	○		
58			6	天吉丸		能 代	越後屋	豊吉	—	—	×	○	
59	嘉永7	1854	1	金毘羅丸	秋 田	折戸屋	甚蔵	—	—	×	×		
60			2	亀吉丸	石 脇	斎藤	伝吉	—	—	×	×		
61			3	栄昌丸		—	助十郎	—	小廻し	×	○		
62			4	天守丸	酒 田	小林屋	金蔵	—	塩引	○	○		
63			5	天王丸			正五郎	—	秋味	○	○		
64			6	天喜丸			善五郎	—	身欠	○	○		
65			7	善宝丸			又吉	—	—	○	○		
66			8	長寿丸	塩 越	叶屋	甚太郎	—	—	×	○		
67	安政3	1856	1	天神丸	秋 田	根布屋孫十郎	—	平三郎(椿)	—	×	×		
68			2	天重丸	酒 田	須田屋	利三郎	—	身欠	×	○		
69	安政4	1857	1	永運丸	秋 田	日野屋	仙蔵	—	—	×	○		
70			2	龍王丸			横山	—	*勘兵衛	—	×	○	
71			3	金毘羅丸			折戸屋	—	*甚蔵	—	○	×	
72			4	吉祥丸			黒丸	—	*長三郎	—	○	○	
73			5	永吉丸	水戸瀬	直光	—	—	○	○			
74			6	幸徳丸	石 脇	最上屋	—	*嘉吉	—	○	○		
75			7	長久丸		庄内鼠ヶ関	五十嵐	善治郎	—	—	×	○	

No.	年代	西暦	年間 入船数	船名	港及び船 主住所	船主	船主直乗	沖乗船頭(出身) *「沖乗船頭」の明示有	積荷・入津事由	船印	帆印		
76	安政4	1857	8	大日丸	庄内鼠ヶ関	五十嵐	喜兵衛	—	箱立より「たらかすへ」 積入」船川にて」	×	×		
77			9	天運丸	能代	越後屋勇助	—	*豊吉	—	○	○		
78	安政5	1858	1	天吉丸	秋田能代	越後谷勇助	—	*平吉	—	○	○		
79			2	神通丸	秋田湊	二本孫兵衛	—	*清三郎(越中)	秋味	○	○		
80			3	—	亀田石脇	仙台屋	弥八郎	—	—	×	×		
81			4	亀吉丸	—	仙北屋勇助	—	*栄吉	—	×	○		
82			5	長寿丸	塩越	叶屋	甚太郎	—	—	○	○		
83			6	豊玉丸	庄内加茂	—	—	*忠兵衛(三国)	—	○	○		
84			7	—	庄内鼠ヶ関	五十嵐	善治郎	—	—	×	○		
85			8	天運丸	能代	越後屋勇助	—	*豊吉	—	○	○		
86			9	龍王丸	—	横山	—	*勘兵衛	鯨	×	○		
87			10	永運丸	湊	相沢	仙蔵	—	—	×	○		
88			11	幸徳丸	—	佐藤兵助	—	*久助	—	○	○		
89			12	吉祥丸	—	佐渡屋喜惣兵衛	—	*長三郎	—	○	○		
90	安政6	1859	1	幸徳丸	秋田	佐藤兵助	—	*久助	—	○	○		
91			2	吉祥丸		佐渡屋喜惣兵衛	—	*永三郎	—	○	○		
92			3	龍王丸		横山久助	—	*寅吉	—	×	○		
93			4	富貴丸	—	杉山	—	*仙蔵	—	×	○		
94			5	亀齡丸	亀田城下	—	豊松	—	—	×	○		
95			6	天神丸	能代	越後屋	富蔵	—	—	×	○		
96			7	龍徳丸		能登屋	勘兵衛	—	—	×	○		
97	万延元	1860	1	幸徳丸	秋田	佐藤兵助	—	*久助	—	×	○		
98			2	得生丸		間杉	長三郎	—	—	×	×		
99			3	龍徳丸		—	勘兵衛	—	—	鯨	×	○	
100			4	永運丸	—	黒丸	—	*七兵衛	—	○	○		
101			5	仙北丸	—	—	—	*長三郎	—	○	○		
102			6	亀齡丸	亀田	狩野七之助	—	*善兵衛	鯨	○	○		
103			7	三吉丸	亀田石脇	仙台屋	—	*岩松	—	×	×		
104			8	天神丸	庄内	小林屋	金蔵	—	—	×	○		
105			9	善宝丸		中屋	太郎左衛門	—	—	船川にて鯨積入	○	×	
106			10	久徳丸	庄内鼠ヶ関	佐藤	久太郎	—	—	×	×		
107			11	天神丸	—	越後屋	富蔵	—	—	身欠	×	○	
108			12	三国丸	能代	象潟市太郎	—	*仙蔵	—	×	○		
109			13	神力丸		湊屋	武兵衛	—	—	新潟より「竹」	×	×	
110	文久元	1861	1	龍徳丸	秋田	能登屋	勘兵衛	—	沓番より「五番にて」	×	○		
111			2	—	秋田脇本村	伊勢屋	弁三郎	—	—	×	○		
112			3	亀全丸	亀田	狩野七之助	—	*善兵衛	—	×	○		
113			4	亀吉丸		加藤新助	—	*徳三郎	—	身欠積入	○	○	
114			5	神力丸	能代	湊屋	武兵衛	—	—	鯨積入」	×	×	
115			6	天神丸		越後屋	富蔵	—	—	×	○		
116			7	小鷹丸	湊	金子清四郎	—	*勘二郎 *辰二郎(庄内)	—	×	○		
117			8	通運丸		—	—	—	*本間権十郎	—	×	○	
118			9	金龍丸		—	草皆周吉	—	*久助(能代)	—	×	○	
119			10	仙北丸		—	黒丸	長三郎	—	—	○	○	
120			11	幸徳丸		—	佐藤兵助	—	*善蔵	—	○	○	
121			12	龍王丸		—	横山久助	—	*勘四郎(能代)	—	○	○	
122	文久2	1862	1	稲荷丸	秋田	—	吉右衛門	—	×	○			
123			2	豊一丸	亀田石脇	奥州屋豊吉	—	*民蔵	—	○	○		
124			3	善安丸	庄内酒田	—	多郎左衛門	—	—	身欠	○	×	
125			4	長栄丸	能代	木村	市太郎	—	—	筋子鯨ふのり	×	○	
126			5	平塚丸		—	平塚	六三郎	—	—	○	○	
127			6	天社丸		—	本庄屋	嘉市郎	—	—	身欠	×	○
128			7	金毘羅丸	—	丸山市兵衛	—	*層吉	秋味	○	○		
129			8	天神丸	—	—	富蔵	—	—	×	○		
130			9	善鏡丸	—	—	嘉助	—	—	×	○		
131			10	小鷹丸	湊	金子	勘二郎	—	—	○	○		
132			11	日和丸		—	黒丸	萬蔵	—	—	鯨」身欠」	○	○
133			12	幸栄丸		—	佐藤兵助	—	嘉七	—	○	○	
134			13	龍王丸		—	横山久助	—	勘四郎	—	○	○	
135			14	龍徳丸		—	—	勘兵衛	—	—	鯨	×	○
136			15	幸徳丸	—	—	久助	—	—	○	○		
137	文久3	1863	1	八幡丸	能代	小林市太郎	—	*利助	身欠	×	○		
138			2	金毘羅丸		丸山	市兵衛	—	—	身欠」秋味」二番」	○	○	
139			3	明王丸	—	柳屋萬太郎	—	市太郎	—	×	○		
140			4	—	—	—	吉右衛門	—	—	×	○		
141			5	大徳丸	三森	比屋	善兵衛	—	—	×	○		
142			6	善鏡丸	湊	越前屋末吉	—	嘉助	—	×	○		
143			7	日和丸		—	黒丸喜惣兵衛	—	萬蔵	—	○	○	
144			8	幸徳丸		—	—	—	*久助	四番	○	○	
145			9	幸栄丸		—	佐藤兵助	—	嘉七	—	○	○	
146			10	稲荷丸		—	—	吉右衛門	—	—	×	○	
147			11	龍徳丸		—	安田儀助	—	勘兵衛	—	五番	×	○
148			12	龍王丸		—	横山久助	—	*勘四郎	—	×	○	
149			13	長寿丸		—	佐藤幸四郎	—	*権八	—	×	○	
150			14	幸寿丸	—	佐藤兵助	—	善松	—	×	×		
151	元治元	1864	1	高福丸	庄内鼠ヶ関	門屋	又蔵	—	—	×	○		
152			2	宝寿丸	戸賀	—	重三郎	—	—	×	○		
153			3	龍徳丸	能代	—	勘兵衛	—	—	鯨	×	○	

No.	年代	西暦	年 間 入 船 数	船名	港及び船 主住所在地	船主	船主直乗	沖乗船頭(出身) *「沖乗船頭」の明示有	積荷・入津事由	船印	帆印		
154	元治元	1864	4	大龍丸	能代	敦賀屋多左衛門	—	寅吉	—	○	○		
155			5	政栄丸		平塚	六三郎	—	鯨	—	○	○	
156			6	弁天丸		加賀屋久吉	—	長三郎	鯨	—	○	○	
157			7	天神丸	草皆周吉	—	勘治郎	—	×	○	○		
158			8	幸徳丸	佐藤兵助	—	久助	—	○	○	○		
159			9	幸栄丸	—	嘉七	—	—	○	○	○		
160			10	龍王丸	横山久助	—	勘四郎	—	×	○	○		
161			11	脇丸	—	嘉助	—	—	○	○	○		
162			12	日和丸	黒丸	七兵衛	—	—	○	○	○		
163			13	長寿丸	佐藤幸四郎	—	権八	—	×	○	○		
164			14	幸寿丸	—	善松	—	鯨	○	○	○		
165			15	稲荷丸	佐藤兵助	—	吉右衛門	鯨	○	○	○		
166			慶応元	1865	1	日和丸	秋田	黒丸	武助	—	鯨	○	○
167					2	幸徳丸		佐藤兵助	—	久助	—	鯨	○
168					3	徳潤丸	亀田城下	加藤	嘉吉(石脇住人)	—	秋味	○	○
169	4	神勢丸			庄内由良川	本間	直乗清右衛門	—	—	×	○		
170	5	—			庄内鼠ヶ関	本間	太惣治	—	—	×	×		
171	6	天吉丸			能代	越後屋勇助	—	*豊吉	鯨	○	○		
172	7	萬吉丸				佐藤松蔵	—	万之丞	○(花石丈にて)	○	○		
173	8	龍徳丸				能登屋	勘兵衛	—	鯨	×	○	○	
174	9	八幡丸				御手船	船頭菊地長兵衛	—	—	○	○	○	
175	10	宝徳丸				田村重助	—	五助	かすべ	○	○	○	
176	11	天社丸				—	嘉市	—	—	×	○	○	
177	12	神徳丸				御手船	—	*富蔵	—	○	○	○	
178	13	幸栄丸				石又	亀吉	—	鯨	○	○	○	
179	14	幸栄丸				佐藤兵助	—	嘉七	—	○	○	○	
180	15	龍王丸				横山久助	—	勘四郎	鯨	○	○	○	
181	16	元徳丸			石又	助三郎	—	鯨	○	○	○		
182	17	弁天丸			加賀屋久吉	—	長三郎	—	○	○	○		
183	18	幸福丸			佐藤	幸助	—	—	○	○	○		
184	19	宝珠丸			佐藤兵七	—	吉右衛門	—	×	○	○		
185	慶応2	1866	1	—	庄内	柴田屋	重三郎(戸賀住人)	—	ます	×	○		
186			2	僊寿丸	庄内鼠ヶ関	佐藤	直乗鳥右衛門	—	—	×	○		
187			3	宝徳丸		本間惣治郎	—	*長助	—	×	○		
188			4	神勢丸	庄内由良川	本間	直乗清右衛門	—	×	○	○		
189			5	神徳丸	能代	御手船	—	*富蔵	—	○	○		
190			6	龍徳丸		能登屋	直乗勘兵衛	—	—	×	○	○	
191			7	天社丸		あんにやきや	嘉市	—	—	×	○	○	
192			8	金毘羅丸		丸屋	直乗市兵衛	—	—	○	○	○	
193			9	澄雲丸		宮腰屋寅吉	—	*丈助	—	○	○	○	
194			10	幸栄丸		越中屋弥助	—	*亀吉	—	○	○	○	
195			11	日和丸		黒丸喜惣兵衛	—	武助	—	○	○	○	
196			12	幸徳丸		湊	佐藤兵助	—	*久助	—	○	○	
197			13	幸栄丸	—			*嘉七	—	—	○	○	
198			14	宝珠丸	—		—	—	—	○	○	○	
199			15	龍王丸	横山久助		—	*勘四郎	—	○	○	○	
200			16	宝寿丸	—		市三郎	—	—	○	○	○	
201			17	慶徳丸	石又		辰之助	—	—	×	○	○	
202	慶応3	1867	1	延命丸	秋田		金子	与三郎	—	—	○	○	
203			2	旭丸	戸賀	—	勘太郎	—	—	×	×		
204			3	大栄丸		三浦	清蔵	—	—	×	×		
205			4	—	能代	—	重太郎	—	鯨	○	○		
206			5	天神丸		—	市太郎	—	鯨	○	○		
207			6	神通丸		—	岩吉	—	—	○	×		
208			7	天神丸		越後屋	留蔵	—	—	×	○	○	
209			8	万吉丸	能代椿村	清水屋八三郎	—	万之丞様	身欠	×	○		
210			9	幸徳丸	湊	佐藤兵助	—	嘉七	—	○	○		
211			10	宝珠丸		松井	吉右衛門	—	—	○	○	○	
212			11	龍徳丸		—	勘兵衛	—	—	×	○	○	
213			12	慶徳丸		石又	辰之助	—	—	○	○	○	
214			13	宝寿丸		佐藤兵助	市三郎	—	—	×	○	○	
215			14	日和丸		黒丸	武助	—	—	○	○	○	
216	15	龍王丸	横山久助	—		*勘四郎	—	○	○	○			
217	明治元	1868	1	住吉丸	亀田石脇	佐藤長右衛門	—	*新左衛門	船川入船「しやけ秋味積入」	○	○		
218			2	加福丸	加茂青砂村	金屋	孫七	—	—	×	○		
219			3	久徳丸	酒田五ノ丁	—	弥惣吉	—	—	○	○		
220			4	大栄丸	戸賀	—	清蔵	—	—	×	×		
221			5	龍徳丸		能登屋	勘兵衛	—	鯨	×	○	○	
222			6	澄雲丸	宮腰屋寅吉	—	*豊吉(椿住人)	鯨	○	○	○		
223			7	天雲丸	宮腰屋寅吉	—	*与八郎(椿住人)	鯨	×	○	○		
224			8	天社丸	大坂屋吉太郎	—	*善蔵	鯨	×	○	○		
225			9	慶徳丸	石又	辰蔵	—	—	○	○	○		
226			10	幸徳丸	湊	横山	久助	—	鯨	×	○	○	
227			11	延命丸		金子	与三郎	—	—	×	○	○	
228			12	宝珠丸		—	吉右衛門	—	—	×	○	○	
229			13	清徳丸	矢島	佐藤清兵衛	—	*与蔵	—	×	×		
230	明治2	1869	1	明徳丸	秋田	—	利三郎	—	—	×	○		
231			2	—	新屋村	佐藤	多吉	—	—	×	×		
232			3	—		—	三之丞	—	—	×	×		

No.	年代	西暦	年間入船数	船名	港及び船主住所在地	船主	船主直乗	沖乗船頭(出身) *「沖乗船頭」の明示有	積荷・入津事由	船印	帆印			
233	明治2	1869	4	妙見丸	男鹿湯尻	—	喜蔵	—	—	×	×			
234			5	徳潤丸	亀田	加藤	直助	—	秋味	○	○			
235			6	住吉丸	亀田石脇	佐藤	新右衛門	—	秋味	○	○			
236			7	新山丸	庄内鳩	—	弥五兵衛	—	鯨	×	○			
237			8	澄雲丸	能代	宮腰屋寅吉	—	丹治郎	—	—	○	○		
238			9	龍徳丸	能代	能登屋	勘兵衛	—	—	—	×	○		
239			10	永福丸	能代下川反	大坂屋	鶴吉	—	—	—	○	○		
240			11	天吉丸	能代椿村	—	弥助	—	—	身欠	×	○		
241			12	長運丸	ハツ森	石崎屋	久蔵	—	—	—	×	○		
242			13	延命丸	—	金子	仁三郎	—	—	—	×	○		
243			14	幸徳丸	湊	横山	久助	—	—	—	○	○		
244			15	天神丸	—	佐藤	幸之助	—	—	—	×	×		
245			明治3	1870	1	長栄丸	金浦	井ノ口	忠三郎	—	十五反」	○	○	
246					2	観徳丸	酒田小屋の濱	萬屋	太助	—	—	—	○	○
247					3	久慶丸	塩越	渡辺	弥三郎	—	—	—	×	○
248	4	豊福丸			庄内加茂	長谷川	八十郎	—	—	酒	×	×		
249	5	—			—	中村屋	金蔵	—	—	旦那本間藤三郎様	×	×		
250	6	宝山丸			庄内鳩	佐藤	富之助	—	—	—	×	○		
251	7	双徳丸			戸賀瀧川	日黒周兵衛	—	*徳蔵	—	—	○	○		
252	8	妙見丸			戸賀湯尻	—	喜蔵	—	—	—	×	○		
253	9	龍神丸			能代	越前屋八右衛門	—	*豊吉	—	五月二日」木」無印」	×	×		
254	10	三海丸			能代	越前屋兵太郎	—	*平四郎	—	木」無印」	×	×		
255	11	—			—	—	喜代松	—	—	八森鯨	×	×		
256	12	長栄丸			能代	加賀屋	長三郎	—	—	鯨	×	×		
257	13	福市丸			能代	—	三太郎	—	—	鯨	×	×		
258	14	龍徳丸			能代	能登屋	市三郎	—	—	—	×	○		
259	15	順福丸			能代	—	重太郎	—	—	—	×	○		
260	16	三吉丸			能代	山田屋	利助	—	—	—	×	○		
261	17	和合丸			能代	越中屋	長吉	—	—	—	×	×		
262	18	永福丸			能代	大三	鶴吉	—	—	—	×	○		
263	19	三峯丸			能代	相澤	寅蔵	—	—	—	×	○		
264	20	龍徳丸			能代	能登屋	勘兵衛	—	—	—	×	○		
265	21	旭丸			能代清助町	大坂屋	菊松	—	—	—	×	×		
266	22	長運丸			能代ハツ森	石崎屋	*忠蔵	—	—	鯨	×	○		
267	23	清寿丸			能代ハツ森	藤田屋	—	*新六	—	—	×	×		
268	24	嘉福丸			能代向へ	八木	喜代松	—	—	鯨	×	○		
269	25	—			船川	—	与右衛門	—	—	—	×	○		
270	26	日和丸			能代	黒丸喜惣兵衛	—	武助	—	—	×	○		
271	27	永傳丸			能代	麻木	藤八	—	—	—	○	○		
272	28	龍王丸			能代	横山久助	—	*嘉市	—	—	○	○		
273	29	幸徳丸			能代	横山	久助	—	—	—	×	○		
274	明治4	1871	1	春日丸	亀田石脇	佐藤長左衛門	—	幸治郎(三国住人)	イカリ」秋味」	○	○			
275			2	神宝丸	庄内温海	加藤	弥藤治郎	—	—	かすへゑ油	×	○		
276			3	番神丸	庄内加茂	中村屋重蔵	—	御同所春吉(庄内加茂)	—	十五反	×	○		
277			4	旭丸	戸賀	竹田屋	勘右衛門	—	—	—	×	○		
278			5	日和丸	能代	越中屋和吉	—	*由蔵	—	—	○	○		
279			6	天社丸	能代	大吉	豊吉	—	—	—	×	○		
280			7	龍神丸	能代	船越屋	豊吉	—	—	身欠積入	×	×		
281			8	長運丸	能代八森	石崎屋	久蔵	—	—	鯨	×	○		
282			9	永傳丸	能代	麻木	藤八郎	—	—	—	○	○		
283			10	海運丸	能代	畑屋	三左衛門	—	—	—	×	○		
284			11	幸徳丸	能代	横山	久助	—	—	—	×	○		
285			12	日和丸	能代	黒丸喜惣兵衛	—	*武助	—	—	○	○		
286			13	亀齡丸	矢島	佐藤清一郎	—	勇三郎	—	—	○	○		
287	明治5	1872	1	快晴丸	秋田	綿屋清兵衛	—	*亀吉	—	○	○			
288			2	永福丸	新屋	—	辰五郎	—	—	—	○	○		
289			5	徳潤丸	亀田城下	加藤	直助	—	—	—	○	○		
290			6	金徳丸	—	奥山	勘右衛門	—	—	—	○	○		
291			7	—	塩越	—	傳兵衛	—	—	身欠	×	○		
292			8	税丸	庄内加茂	梶野	与左衛門	—	—	—	×	○		
293			9	幸徳丸	庄内小鳩	佐藤萬治郎	—	重兵衛	—	塩引」筋子」	×	○		
294			10	—	庄内小鳩	佐藤	正右衛門	—	—	まし(鱒)	×	○		
295			11	—	庄内小鳩	佐藤	津右衛門	—	—	まし(鱒)」かすへ」	×	○		
296			12	久宝丸	庄内酒田	佐藤	儀七	—	—	塩引」三番」	×	○		
297			13	寿福丸	庄内由良川	本間	佐藤右衛門	—	—	往来甚左衛門	×	×		
298			14	出清丸	能代	—	—	—	—	小廻し	×	○		
299			15	山王丸	能代	—	—	—	—	—	×	×		
300			16	小徳丸	八森濱田村	熊谷	—	—	—	—	○	○		
301			17	春日丸	船川	—	与右衛門	—	—	—	×	○		
302	18	幸栄丸	船川	横山	嘉七	—	—	鯨	×	○				
303	19	神力丸	能代	—	—	—	—	—	×	○				
304	20	慶栄丸	能代	佐藤清一郎	—	権左衛門	—	塩引	×	○				
305	21	亀齡丸	能代	—	—	勘三郎	—	—	○	○				
306	22	永傳丸	能代	—	—	勇三郎	—	—	×	○				
307	明治6	1873	1	善吉丸	新屋	五十嵐	善松	—	—	×	○			
308			2	三吉丸	新屋	佐々木	三治	—	—	—	×	×		
309			3	永福丸	新屋	齊藤	孫右衛門	—	—	—	×	×		
310			4	高市丸	新屋	佐藤	市之助	—	—	—	×	○		
311			5	海福丸	新屋	加藤	辰之助	—	—	—	×	×		
312			6	長福丸	新屋中村	藤田	長五郎	—	—	—	×	×		

No.	年代	西暦	年間入船数	船名	港及び船主住所	船主	船主直乗	沖乗船頭(出身) *「沖乗船頭」の明示有	積荷・入津事由	船印	帆印			
313	明治6	1873	7	春日丸	石 脇	佐藤長右衛門	—	幸治郎	—	○	○			
314			8	汐日丸	男 鹿	—	五郎八	—	—	—	×	×		
315			9	万徳丸	男鹿正道	三浦	市左衛門	—	—	—	×	×		
316			10	長徳丸	男鹿湯ノ尻	ひ山谷	長八	—	—	—	×	×		
317			11	幸宝丸	亀田石脇	佐藤長右衛門	—	—	吉五郎	上下行	○	○		
318			12	吉徳丸	久保田いさし町	大山	多一郎	—	—	—	×	○		
319			13	—	酒田小屋ノ濱	—	孫右衛門	—	—	—	×	×		
320			14	金徳丸	塩 越	奥山	勘左衛門	—	—	—	×	○		
321			15	—	庄 内	佐藤	作蔵	—	—	—	×	×		
322			16	大福丸	庄内青塚	青山	嘉左衛門	—	—	—	×	×		
323			17	蛭子丸	—	青山嘉左衛門	—	—	三吉	—	×	×		
324			18	八幡丸	庄内温海	粕屋	八右衛門	—	—	—	×	×		
325			19	明神丸	—	佐藤	佐五兵衛	—	—	—	×	×		
326			20	榮宝丸	庄内上林村	佐々木	亀蔵	—	—	—	×	×		
327			21	長寿丸	庄内大鳩	本間	喜右衛門	—	—	—	×	○		
328			22	峯成丸	庄内川比宮海村	納谷	庄十郎	—	—	—	×	×		
329			23	福寿丸	—	佐藤	市蔵	—	—	—	×	×		
330			24	末廣丸	—	佐藤	正右衛門	—	—	—	×	×		
331			25	末福丸	庄内小鳩	佐藤	勘之丞	—	—	—	×	×		
332			26	清福丸	—	佐藤	清右衛門	—	—	—	×	×		
333			27	幸徳丸	—	佐藤	萬右衛門	—	—	—	×	×		
334			28	大福丸	庄内三瀬	白幡	太四郎	—	—	—	×	×		
335			29	多宝丸	—	白幡	多郎左衛門	—	—	—	×	×		
336			30	久宝丸	—	佐藤	藤吉	—	—	—	×	×		
337			31	—	—	—	藤吉	—	—	—	×	×		
338			32	福順丸	庄内白木村	岩原	重右衛門	—	—	—	×	×		
339			33	福吉丸	—	本間萬吉	—	—	弥助	—	×	○		
340			34	—	—	—	与十郎	—	—	—	×	○		
341			35	市宝丸	—	伊原	市助	—	—	—	×	○		
342			36	鴨丸	庄内田川藤野山村	阿邊	利左衛門	—	—	酒	×	×		
343			37	妙見丸	—	—	喜蔵	—	—	—	×	×		
344			38	明徳丸	戸賀湯ノ尻	—	長之助	—	—	—	×	×		
345			39	永福丸	長濱村	伊藤	与八郎	—	—	—	×	○		
346			40	長雲丸	—	柳屋	長三郎	—	—	—	×	○		
347			41	日和丸	—	越中谷	由蔵	—	—	—	×	○		
348			42	天運丸	能 代	—	利助	—	—	—	×	○		
349			43	太平丸	—	平川	萬蔵	—	—	—	×	○		
350			44	三吉丸	—	—	嘉市	—	—	—	○	○		
351			45	善宝丸	能代釜屋濱	梅田	喜太郎	—	—	—	×	×		
352			46	大宝丸	能代横間	工藤	瀧蔵	—	—	—	○	○		
353			47	金徳丸	—	丸谷	喜久松・利三郎	—	—	—	×	×		
354			48	清寿丸	八 森	亀田屋	勘九郎	—	—	—	×	×		
355			49	神力丸	船 川	佐藤	亦助	—	—	—	×	×		
356			50	明神丸	本庄土ノ浦	阿部	喜蔵	—	—	—	×	×		
357			51	白龍丸	本庄松ヶ崎	鈴木	重左衛門	—	—	—	×	○		
358			52	幸運丸	舛川村	佐藤	右衛門	—	—	—	×	×		
359			53	幸栄丸	—	横山	嘉七	—	—	—	×	○		
360			54	快晴丸	—	—	亀吉	—	—	—	○	○		
361			55	幸得丸	—	館山三郎兵衛	—	—	清六	—	○	○		
362			56	唐申丸	—	—	利助	—	—	※唐だが庚の誤記カ	×	×		
363			57	—	湊川端	—	源治郎	—	—	—	×	×		
364			明治7	1874	1	幸徳丸	秋 田	—	—	清六	—	○	○	
365					2	金栄丸	秋田八森	金谷	松五郎	—	—	鯉	×	○
366					3	金貞丸	—	松館	吉太郎	—	—	身欠	×	○
367					4	高市丸	—	高橋	大六	—	—	—	○	○
368					5	扇子丸	—	高橋	市之助	—	—	—	○	○
369					6	善吉丸	—	五十嵐	善松	—	—	身欠	×	○
370	7	海運丸			—	渡邊玄之助	—	—	*玄治郎	—	○	○		
371	8	八幡丸			—	—	久三郎	—	—	身欠	×	×		
372	9	順徳丸			—	加 茂	大友長三郎	—	—	*貞吉	身欠	×	○	
373	10	嘉福丸			庄内青塚	青山	勘左衛門	—	—	—	数ノ子	×	×	
374	11	長宝丸			庄内温海	佐々木	清三郎	—	—	—	筋子 鮒	×	○	
375	12	徳善丸			庄内加茂	秋野善治郎	—	—	*與左衛門	—	身欠	○	○	
376	13	末福丸			—	佐藤	勘之丞	—	—	—	鮒 筋子	×	○	
377	14	永宝丸			—	佐藤	儀兵衛	—	—	—	身欠	×	○	
378	15	福寿丸			—	佐藤	市蔵	—	—	—	身欠	×	○	
379	16	清福丸			—	佐藤	彦治郎	—	—	—	身欠	×	×	
380	17	専福丸			—	佐藤	清助	—	—	—	身欠	×	×	
381	18	喜龍丸			庄内小鳩	佐藤	弥助	—	—	—	身欠	×	×	
382	19	宝龍丸			—	佐藤	五郎右衛門	—	—	—	身欠	×	×	
383	20	龍福丸			—	佐藤	佐五右衛門	—	—	—	身欠	×	×	
384	21	神力丸			—	佐藤	万右衛門	—	—	—	塩引	×	×	
385	22	末廣丸			—	佐藤	正右衛門	—	—	—	—	×	○	
386	23	市宝丸			庄内白木	伊原	市助	—	—	—	鯉	×	○	
387	24	祐徳丸			戸 賀	越前谷	正吉	—	—	—	—	×	○	
388	25	明見丸			戸賀湯ノ尻	—	喜蔵	—	—	—	鯉	×	×	
389	26	澄雲丸			—	山本	利助	—	—	—	—	×	○	
390	27	太平丸			能 代	—	正吉	—	—	—	身欠	×	○	
391	28	順徳丸			—	工藤	専兵衛	—	—	—	身欠	×	○	
392	29	高德丸			—	高橋	利三郎	—	—	—	—	×	○	

No.	年代	西暦	年 間 入 船 数	船 名	港及び船 主 住 所 地	船 主	船主直乗	沖乗船頭(出身) *「沖乗船頭」の明示有	積荷・入津事由	船印	帆印	
393	明治 7	1874	30	幸徳丸	八森濱田	熊谷	喜助	—	鯨	×	×	
394			大宝丸	八森横間	工藤	房吉	—	鯨	○	○		
395			幸運丸	増川村	佐藤	市兵衛	—	身欠	×	×		
396			幸栄丸	漆	横山	—	—	—	×	○		
397	明治 8	1875	1	徳寿丸	新屋中村	—	作十郎	—	—	×	×	
398			2	海運丸	新屋村	—	吉之助	—	—	○	○	
399			3	海徳丸		倉松	—	加藤辰五郎	—	○	×	
400			4	善吉丸		五十嵐	善松	—	—	×	○	
401			5	扇子丸		高橋吉郎左衛門	—	*市之助	—	○	○	
402			6	高市丸		—	大六	—	—	○	○	
403			7	竹運丸		若杉	竹松	—	—	×	×	
404			8	龍光丸		男鹿北浦	齊藤	有右衛門	—	—	×	×
405			9	大徳丸		亀田石脇	—	—	*幸治郎	—	○	○
406			10	幸宝丸			佐藤長左衛門	—	*吉五郎	—	○	○
407			11	飛徳丸	亀田松ヶ崎	佐々木	兵右衛門	—	—	×	×	
408			12	—		長兵衛	—	—	×	×		
409			13	善徳丸		高橋	善九郎	—	—	×	×	
410			14	福德丸	金浦村	中津	三治郎	—	—	×	×	
411			15	—	塩 越	齊藤	藤吉	—	—	×	×	
412			16	—		渡邊	弥三郎	—	—	×	×	
413			17	長宝丸	庄内温海	佐々木	清三郎	—	—	×	×	
414			18	柳楊丸	庄内大鳩	本間	喜右衛門	—	—	×	×	
415			19	末福丸	庄内小鳩村	佐藤	勘之丞	—	—	×	○	
416			20	金乗丸		佐藤	太治兵衛	—	—	×	○	
417			21	末廣丸		佐藤	正右衛門	—	—	×	×	
418			22	清福丸		佐藤	彦治郎	—	—	×	○	
419			23	勇福丸		佐藤	三五右衛門	—	—	×	×	
420			24	喜龍丸		佐藤	弥助	—	—	×	×	
421			25	永宝丸		佐藤	儀兵衛	—	—	×	×	
422			26	神力丸		佐藤	萬右衛門	—	—	×	×	
423			27	福寿丸		佐藤	市蔵	—	—	×	×	
424			28	天王丸		佐藤	太右衛門	—	—	×	×	
425			29	永宝丸		佐藤	儀兵衛	—	—	×	×	
426			30	専福丸		佐藤	清助	—	—	×	×	
427			31	—		佐藤	八十郎	—	—	×	×	
428			32	三宝丸	庄内酒田	小倉屋金蔵	—	吉蔵	—	○	○	
429			33	速鳥丸	庄内三前	川上	傳右衛門	—	—	×	×	
430			34	善太丸	庄内白木村	本間	善八	—	—	×	×	
431			35	福吉丸		—	弥助	—	—	×	×	
432			36	富栄丸	庄内鶴ヶ岡	京傳屋	岩蔵	—	—	○	○	
433			37	善光丸	庄内由良川	佐藤	市十郎	—	—	×	×	
434			38	—		佐藤	権左衛門	—	—	×	×	
435			39	祐徳丸	戸 賀	越前屋	正吉	—	—	○	○	
436			40	運喜丸	戸賀畑ヶ村	—	喜三郎	—	—	×	×	
437			41	天金丸	能代浅内村	武田	九郎右衛門	—	細布	×	×	
438			42	勢正丸	能代港	菊地	利三郎	—	—	○	○	
439			43	順宝丸	能代清助町	坂田谷	重太郎	—	—	×	○	
440			44	大吉丸	能代港	八木	富蔵	—	—	×	○	
441			45	三吉丸		—	重太郎	—	—	×	○	
442			46	三宝丸		本城屋	小七郎	—	—	×	○	
443			47	順徳丸	八森濱田村	工藤	藤兵衛	—	—	×	○	
444			48	宝龍丸	港	青崎屋吉兵衛	—	*久吉	—	○	○	
445			49	幸得丸		—	—	清六	—	—	○	○

挿入文書 1 6)

覚

一、 松栄丸 文七

一、 同 大栄丸 由太「(破断)」

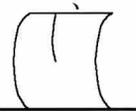
一、 同 海寿丸 佐兵衛

一、 同 神明丸 清兵衛

右之通可仕御座候間、其地着船之  
砌御深心之程奉願上候、以上  
壬申  
五月十四日

松居 由太郎  
同 文七

秋田湊 附船 三太郎様



挿入文書 2 7)

右之通秋田附船三太郎を申付被  
下度、奉願上候、以上  
辰  
十一月四日

佐藤 三郎兵衛(印)

拾七反

越後柏堰(崎)

栄代丸 佐藤彦八様

正



挿入文書 4

同とし

駿河有戸(渡郡)清水湊  
河田屋栄助

福神丸

大



挿入文書 3

豊前小倉宇之嶋  
万屋助九郎  
七月八日

万福丸 半兵衛

万寿丸 彦兵衛

万吉丸 孫兵衛

大宝丸 清藏

荣福丸 三平

万幸丸 弥助

挿入文書 5

越後新潟 財木町  
廣川与兵衛船  
沖市右衛門

十五反

八

幸運丸

十月廿三日入船



挿入文書 6

太神丸  
 越後岩船郡  
 馬下村 井上松右衛門船  
 附船三太郎様  
 右之通り御座候、以上  
 巳二月廿日

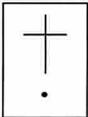
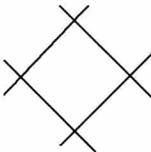
挿入文書 8 8)

記  
 齋藤喜十郎手船  
 あら浜住人  
 長寿丸 阿部権兵衛様  
 同  
 長野清三郎様  
 右者唐人塩鱒積入船川港九月廿四日入  
 港致、其節附船三太郎江相極申候也、  
 此時留吉参り申候也、旧八月廿日  
 明治十三年  
 辰九月廿四日



挿入文書 7 9)

一、盛徳丸 船頭 半右衛門  
 岩船  
 一、竜徳丸 同 幸次郎  
 太郎太夫  
 一、清竜丸 同 広次  
 同  
 一、永宝丸 同 六助  
 新潟  
 一、永徳丸 同 庄兵衛  
 同  
 一、嘉昌丸 同 幸吉  
 太郎太夫  
 一、弁天丸 同 豊之助  
 笹口  
 一、和合丸 同 長次郎  
 新潟  
 越後新発田 生産局  
 右之通当湊到着之節、附船三太郎殿江止宿  
 可被成候、以上  
 午三月 代々木屋  
 与四郎(印)  
 船中 衆中様

挿入文書 9

山形県下第四大区四小区羽前国田  
 川郡上□□村 高橋忠八  
 沖船頭 酉吉  
 手代 小林正之助

挿入文書10 10)

栄室丸 十七反帆手船  
 後志国島牧郡厚瀬村  
 根来武十郎(印)  
 船長 岡本善七  
 三太郎殿  
 附船宿也



挿入文書11 (表紙断簡)

子  
 仕切帳